



左／農家レストラン「ル・カルフル」と田村夫妻 右／農作業体験が行われるリンゴ畑が広がる風景

都市・農村交流拠点

地元農家グループによる ネットワーク型の農業体験交流拠点

弘前里山ツーリズム（青森県弘前市）

■ 経緯・実現のプロセス・ 整備の目的

弘前市は青森県の西南部、岩木山の麓に広がる人口約19万人の都市である。津軽藩の城下町として発展を遂げ、また今日では全国一のリンゴ産地としても知られる農業都市でもある。弘前里山ツーリズムによる取り組みは、こうした地域の農業資源を地元農家たちが創意工夫して活かし、修学旅行を中心とした農業体験者の受け入れで、都市農村交流を推進し地域全体を交流拠点としている事例だ。

この活動の中心となっているのが、田村義夫さん、えり子さん夫妻。夫妻は、弘前市百沢で「ペンション＆農家レストラン ル・カルフル」を21年

前から経営している。ル・カルフルとはフランス語で“交流”を意味する言葉。ここでは義夫さんが自ら栽培した農作物や地元の食材を主体とするフランス料理を提供。自然のゆったりとした空気のなかで味わえるレストラン兼ペンションとして広く知られている。義夫さんは東京生まれの埼玉県育ちで、コックを目指し、東京のホテルで修行を積んでいたが、結婚後、えり子さんのふるさとの旧岩木町（現弘前市）に帰郷。もともと、えり子さんの実家は、観光農業が一般的でない頃からリンゴ農園、ニジマス養殖などに取り組んでいた。実家の取り組みをさらに拡大すべく、宿泊もできるレストランを目指してル・カルフルを始めた。

農資源を活かしながら地域の活性化にかかわりたいという思いがあり、ル・カルフルで、農作業や調理などのさまざまな体験メニュー、津軽地方や近隣地域の観光情報などを、宿泊客たちに提供し始める。これが今日の弘前里山ツーリズムのスタートとなる。こうしたなか、グリーン・ツーリズムの展開を模索する国や青森県の支援等もあって、ル・カルフルは平成7年8月に農林漁業体験民宿として県下第一号の指定を受けた。また、えり子さんは県で最初のグリーン・ツーリズムコーディネーター認定者となるなど、ル・カルフルは地域の観光交流の情報拠点として、そして夫妻はその中心者として次第に広く知られていくようになる。



平成13年度からは、旧岩木町が2カ年度にわたってさまざまな住民活動を支援。えり子さんはこの制度を活用して、地域の農家たちと農業資源を活かし観光交流するための仲間づくりを試みた。そして先進事例の視察や基礎的な勉強会の開催などに2年間取り組み、付近の農家一軒ずつ訪ねて直接参加を呼びかけ13人の賛同者を得る。今の弘前里山ツーリズムの中心メンバーだ。

一方、平成15年頃からペンションでの体験活動が次第に評判になり、旅行会社などから修学旅行での農体験などの受け入れを依頼されるようになる。これに応えるよう、賛同した農家たちと共に、各農家で少人数ずつ受け入れを始めた。当初は、農家民泊にかかわる旅館業法等のさまざまな規制があったが、それを別の形で読み替えながら行うなどの苦勞を経て、ひとつひとつの積み重ねで参加農家も自信をつけ、さらに積極的に受け入れるようになっていく。こうした活動は行政区域を越えて、旧弘前市の農家の取り組みを誘発。平成

17年の市町村合併による新弘前市の誕生に合わせて、同じ取り組みを進める農家たち、56戸の会員で「弘前里山ツーリズム研究会」を発足。そして、平成21年より「弘前里山ツーリズム」へと改称し、67戸の会員参加を得るまでに拡大した。さらに首都圏下から200人～300人規模の修学旅行等を受け入るために100戸の会員を目指している。そして昨年からは、弘前里山ツーリズムのメンバーが中心となって、東京の商店街まで直接販売しに行くなど、農資源を活かして地域を売り出す取り組みへと発展拡大を見せている。これらの活動は、弘前市や青森県からの助成を得ながら行っている。こうして、今では弘前市におけるグリーン・ツーリズム活動を展開する主要な住民組織として大きく期待されるまでになっている。

■ 取り組みの概要・特徴

本事例は、行政が大掛かりな施設整備を進めたわけではない。地域活性化を進めたいと考える個人が、自らは拠点となりうるレストラン＆ペンションを経営しつつ、もともと地域にあった「農家」という農資源を活かすべく農家たちの参加による人のつながりとその参加の仕組みを工夫して、ネットワーク型とでもいえる形で地域全体を交流拠点として育ててきた点が特徴的である。農家には受け入れ人数に応じて所定の費用が支払われ、一定の現金収入が実績に応じて得られるという形になっている。そのまとめ役が田村夫妻だ。特にえり子さんは弘前里山ツーリズムの事務局長として、修学旅行での農体験二一ズをきめ細かく受け止め、実際に

受け入れる農家側とのマッチングなどを行っている。こうした事務局としての活動に対しては、農家から受け入れ一人当たりの費用の10%を支払ってもらう(当初は5%だったが、会員農家より10%でもいいという声が大きくなり高くなったとのこと)。

受け入れ農家となるには、弘前里山ツーリズムの会員として参加してもらう必要があり、会員となる条件は各農家の得意なこと、提供できる農体験などのプロフィールを示してもらうことになっている。弘前市はリンゴ農家が多いため、収穫して現金が得られる秋までの間、こうした形で現金収入があることに参加農家も喜んでいとのこと。受け入れ農家の特徴を把握することは大切で、日頃から会員農家と家族同様の緊密な付き合いをするように努めている、とえり子さんは言う。

■ 評価と今後の展望

活動を続けていくなかで、次第に大人向けの体験受け入れも派生し始めていて、活動の発展的多様化に伴い、いくつかのグループの形成と役割分担を見せている。そして、これらの活動の中心には田村夫妻がいて、そのひとつの拠点的な施設として夫妻が経営するル・カルフルという民間施設がある。

このネットワーク型交流拠点を成立させている背景には、地域の発展を願い地域の農家たちと家族同様に付き合い、きめ細かく情報を把握している中心者の存在が大きい。また、自治体が自主的な住民活動を支援してきたことも大きな要因となると考えられる。

プロジェクト概要	
名称: 弘前里山ツーリズム システム: 体験交流活動受け入れを希望する場合には「会員」として参加。事務局が受け入れのコーディネートを担う。受け入れ一人当たりの所定費用に基づいて、受け入れ人数に応じた金額が会員農家に支払われる。事務局には一人当たり受け入れ費用の10%を納める。参加会員数は67戸(通年受け入れ。期間限定受け入れ会員は別途5戸)。会員資格は特にないが、参加登録時にプロフィールや提供可能な受け入れ体	体験メニュー を申請する。 事務局: 青森県弘前市大字百沢字東岩木山1850-12 (ペンション&農家レストラン・カルフル内 田村えり子) TEL.0172-83-2324 FAX.0172-83-2325 Eメール: le.carrefour@apple.email.ne.jp ホームページ: http://hirosakist.exblog.jp 主な農業体験メニュー: リンゴ花摘み作業、リンゴ収穫体験、リンゴ草木染め体験、リンゴジャム作り体験、岩木山登山、山菜収穫、ブルーベリー収穫、共同調理 など